

イベント報告

2022 年秋季大会 講演4

『How to promote social implementation of knowledge』

フィル・ウィックハム

本日は、ベンチャーキャピタルでの30年以上にわたるハイレベルの経験やベストプラクティスの一部を紹介したい。また、25年にわたってカウフマン・フェローズ・プログラムに関わってきたが、ベルリン、シンガポール、メキシコシティなどでエコシステムが立ち上がるのを目の当たりにしてきた。東京は今後、世界でも2、3本の指に入る重要なイノベーション都市になるだろう。そのことについても話したい。

ベンチャーキャピタルの歴史に少し触れよう。アメリカの最初のベンチャーキャピタリストは、DECの創始者ケン・オルセンに投資したドリオ准将であり、もう一人がマリオン・メレル社の名誉会長ユーイング・マリオン・カウフマンだ。カウフマンはアメリカの経済優位性は、新しい会社を生み出すことにありと考え、起業家を輩出するための財団を創設。アメリカのスタンフォード大学やマサチューセッツ工科大学など、30もの大学と連携して起業促進のシステムを作り上げた。彼の死後、カウフマン・フェローズ・プログラムが1995年に創設され、私も95年からフェローになっている。このプログラムを通じて、オペレーターや営業、マーケティング担当者、科学者、医学博士のバックグラウンドを持つ者や、有色人種、女性のベンチャーキャピタリストなどを輩出した。2002年からは、世界プログラムとなり、今や50カ国に展開している。資金規模は1兆ドルである。

現在、資金調達の方法も多様化し起業家の力が増しているため、ベンチャーキャピタリストは起業家に奉仕するユニークで創造的な方法を見つけなければならない。たとえば、カウフマン・フェローズの仲間である次の4社、Activate、Mighty Capital、Next47、Ensembleは、

ディープテックやプロダクトデザイン支援、人材評価などユニークな方法を提供している。

ベンチャーキャピタル投資では、少なくとも20倍の付加価値をもたらすくらい成功しないと事業存続は難しいが、これは上位8%程度だ。そのためはとにかく、成功を導き出す起業家を見つけ出すことがもっとも重要だ。彼らは、自分の信念に結びついた目的意識と情熱、そして、人から信頼を得ることのできる能力を持っている。ここから優れたビジネスモデルと企業文化を紡いでいくことができるのだ。

(文責・西田 治子)

フィル・ウィックハム

Sozo Ventures 共同創業者兼マネージング・ダイレクター
早稲田大学ビジネススクール 客員教授

カウフマン・フェローズ 元 CEO

シリコンバレーの国際展開支援のトップファンドとして知られている Sozo Ventures で、ツイッター、スクエア、コインベース、ズームといった投資案件を支援する。ベンチャー投資家、スタートアップ起業家として豊富な経験を有し、世界最大規模の次世代ベンチャー・キャピタリスト育成機関であるカウフマン・フェローズの CEO を経て名誉会長として、ベンチャー・キャピタルの次世代リーダーの育成を支援してきた。

カウフマン・フェローズ出身者が設立した数多くのファンドを支援し、スポティファイへの投資で知られるスウェーデンの Creandum(クレアナム)などで名誉顧問を務めている。また、スタンフォード大学工学部大学院で教鞭をとり、早稲田大学ビジネススクール(WBS)の招聘客員教授も務めている。